

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300720		
法人名	株式会社 ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホームみおつくし新守山 1F		
所在地	名古屋市長山区新守西2032番地		
自己評価作成日	平成26年11月5日	評価結果市町村受理日	平成27年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR新守山駅から徒歩約10分の交通の便が良い場所にありながら、近隣の皆様の御協力のもと、鍵のかけない介護が実現できています。ご利用者様が過ごされるホールは、大きな窓からの採光も明るく、床面積も広く取っているため、明るく広々とした印象です。ホーム開設後10年を経過していますが、開設時に入居されたご利用者様も数名いらっしゃいます。ホーム全体に、のんびりとした雰囲気が漂っています。町内会のお祭りのお宿として、駐車場を開放しています。健康面に関しても、主治医と訪問看護が毎週往診に来訪し、ご利用者様の健康状態を把握し、健康に対するアドバイスや、健康管理、状態悪化時の対応を行っているため、ご家族にも、ご本人にも安心して頂けると思っております。また温泉旅行やレク等の行事も他施設との合同開催も多く、外出の機会が多いのも特徴です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である<やすらぎ>の理解を職員全員が深め、自然体で対応するように心掛けている。自分や家族が入りたい、入って欲しくなるようなホーム作りを目標及びテーマとして日々取り組んでいる。近隣の住民との交流も盛んに行われていて、区の福祉まつりでは揃いの衣装で歌や踊りを披露している。また、法人全体で、近くのビール工場へ見学に行ったり、一泊旅行にも出かけるなど外出にも力を入れている。職員は、長期的な将来を見据えた支援の質の向上や事業所のあり方を話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である<やすらぎ>をホールに掲げ、各職員が意識して仕事に当たれるようにしている。毎月のカンファレンスの前に、全員で理念を読み上げ、意識付けを行っている。また、普通の生活とは何かを常に考えるように職員に伝えている。	職員は皆、理念の大切さを自覚し、さりげない支援を行い、自然体で接することを心がけている。その人の一日のペースに合わせた生活を送れるよう、方向性を話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加をしており、秋祭りのお宿として場所を提供したり、各行事への参加や協賛を行っている。また、ホームの行事に地域の方の参加を呼び掛けたりしている。	自治会長をした事もあり、地域との交流は深まっている。地域の人を招いてホームで、認知症養成講座を開いたり、クリスマス会などのイベントに招待している。近所の人や登下校時の子供達とも自然に挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの専門性を生かし、介護に関する相談等を受けたりしている。今年は地域の民生委員の方が集まり、事業所の運営方針や、国の施策の説明等の会合を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2カ月に1回の開催をしている。会議はなるべく委員の方に意見を述べて頂き、それに答える形で会議を進め、事業所の運営に取り入れるよう努力している。	会議には、地域の人や民生委員が積極的に出席している。法人5施設合同で開催して、行事報告や意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者が多いこともあり、区役所の保護課とは特に連絡を密にしている。毎年の守山区福祉祭りに参加もし、福祉協議会や地域包括支援センターとも連携を強化するようにしている。	市、区役所に出向き、情報交換をして連携を取っている。近くの地域包括支援センターとも情報交換をしている。また、傾聴ボランティアの依頼をする事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行わないようにしている。必要な時は、あらかじめご家族やご本人に同意を得るよう、会社から指示されている。	身体拘束を行わない方針は職員で共有しており、玄関の施錠も行っていない。地域の人々が、事業所との関わりが深まる中で、協力的に利用者を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何なのか、どういうものが虐待に当たるのか等をカンファレンスや申し送り、また職員に個人的に伝え、虐待をしないように周知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや申し送り時等、機会が有るごとに話し合いを行っており、職員にも少しずつ浸透してきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り細かな説明を行い、疑問点にはきちんと答え、ご理解・ご納得をして頂くように努めている。なお、必要な時は書面でご連絡を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者がご本人やご家族との会話を通し、ご意見等を聞く機会を持つようにしている。職員にもご意見が話しやすいような雰囲気作りの必要性を話し、実践してもらっている。	入口には意見箱が設置してあるが、日頃から家族は管理者や職員に、直接意見や要望が伝えやすい雰囲気である。出された意見、要望は本社にも伝えて運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り時をはじめ、管理者が直接意見を聞いたりして、実施できるものから反映をしている。	職員からの要望により、法人独自の検定を行い、介護技術を評価して、給与に反映されるようになった。事業所の将来は職員の向上心によることを、認識している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境の改善には出来る事から取り組んでいる。賃金面の諸手当の充実や電動ベッドの設置等職員の働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のカンファレンスの前に、30分ほど社内研修の時間を設けている。また社外の研修にも参加機会を増やすように努めている。今年度より職員のスキルアップ研修を始める事が決まっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修への参加や近所の同業者との関係作りを徐々に行っている。研修で知り合いになった他施設へ職員が現場研修に行く事も進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特にご本人の生き立ちや生活歴を知ることにより力を注いでいる。また、ご本人の要望等を極力聞く時間を設け、少しでも早くホームになじんで頂けるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に電話等で連絡をしてもらうよう配慮している。来訪時には状態説明や要望がないかを管理者や職員の方からお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初はもちろんのこと、入居後に状況変化が有るごとに、ご家族やご本人と話し合い、必要な援助を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	代表者や管理者は職員にご本人との会話の重要性や一方的な介護にならないよう伝えており、職員も理解し良い関係が気付けようようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者は、遠方のご家族にははがきや手紙で近況をお伝えしたり、電話連絡を入れたりしており、職員も来訪時にご本人の近況をお伝えしており、ご家族とご本人の距離を短くするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仕事関係の方や、ご近所の方にも来訪して頂くよう、ご家族に話しており、実際に来訪して頂いている。また機会があれば、馴染みの場所にもお連れするようにもしている。	開設時からの利用者もおり、近隣の付き合いが深まっている。地域にある喫茶店や小売店から、差し入れをもらったりする事もあり、運営推進会議に参加した事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレク等をする事により、各利用者様同士の関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には気軽に相談や訪問をしていただくように伝えており、実際相談を受ける事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護の仕事は特にコミュニケーションが重要だと考えており、新人職員に限らず各職員には声掛けを重点的に行うよう伝えており、ご本人だけでなく、ご家族の意向も把握するように努めている。	日常の会話の中で把握するよう努め、利用者の立場や気持ちになって検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者は、アセスメントを職員が自由に閲覧できるようにしている。また職員も普段の会話を通し、生活歴等を聞き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りをはじめ、職員間の情報共有を密にするようにして、利用者様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスを基に計画を立てるようにしている。計画立案時にはご家族に電話で現状をご説明し、要望をお聞きしたりしている。ただし、連絡が取りづらいご家族もいらっしゃるため、方法の修正が必要かとも考えている。	毎月のカンファレンスを基に、医師や家族と相談しながらケアプランを立てている。見直しは通常6ヶ月ごとだが、変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の介護記録に状態や記録をつけており、また体調管理ノートを作成し、体調の思わしくない時はそのノートに書き込むことで、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員には臨機応変の対応が重要な事を説明し、理解をしてもらえるように話している。職員も柔軟な対応が出来るように努力してくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長や民生委員さん達との関係強化に努めたり、社会福祉協議会や地域包括支援センター等との関係を築いており、職員にも情報を伝えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご本人に説明し、了解を得たうえでホームの主治医に月2～3回往診をしてもらっている。緊急時には病院との連絡もしてもらっている。	協力医の内科や専門医の往診がある。入居時に薬を多く服用していた利用者の薬を減らしていく方向で、ホーム側とかかりつけ医との意見が一致し、実現できた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週ホームと契約している訪問看護STより看護師が来訪し、情報提供や相談を行っている。また状態の思わしくないご利用者様の情報を主治医に連絡してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関として複数の病院や医院と契約を交わしている。また病院のケースワーカーとも退院についてや退院後の受け入れについて等連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や機会が有るごとに方針を説明し、理解を得るようにしている。重度化した時は、主治医よりご家族様に状態説明と今後の方針を話し合う機会を設けている。研修という形ではないが、職員にも重度化した時の対処等を話す機会を増やしている。	ホーム側ができることとできないことを、家族に説明している。今年10月に2名の利用者の看取りを行った。その際には他の利用者に配慮した対応をし、亡くなった後のフォローも心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員ではないが、応急手当等の研修を行っており、1月には本社で救急隊員を招き、AEDの使用法や心臓マッサージの研修を行った。		
ガッツ	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を行っており、地域の避難訓練にも参加をしている。地域の方の参加はまだ出来ていないが、引き続き町内会と話し合いを行っていく予定。昨年度は町内会の組長を務めていたこともあり、地域の防災訓練に参加をした。	7月には避難経路をカンファレンスで確認し、訓練を実施している。12月には夜間想定での訓練を実施予定しており、ホーム内に備蓄している物の期限の確認をしている。また、緊急時にオムツを届けてくれる業者と契約をしている。AED付帯・搭載型自販機の設置を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンス前に全員で理念を読み上げ、意識付けを行っているが、時に言葉が乱暴になる時もある。その際は管理者や各職員がお互いに声を掛け合い、注意を促すようにしている。	月1回の主任会議を接遇教育の場とし、その後、主任が各職員に指導している。職員は利用者を人生の先輩として接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様本人が選択できるような問いかけや場面をなるべく多く作り出すよう、各職員は働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各職員にはご利用者様のペースで過ごして頂くようカンファ等で話し合っており、押しつけとならないように各職員とも支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた服は、その都度着替えていただいたり、介助が必要な方には、職員が援助をしている。身だしなみに関しても、同様に声掛けや介助を行う事で、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はご利用者様の希望をお聞きしたり、毎回ではないが、当日有るものを職員とご利用者様とで調理を行っている。片付けもご利用者様にお願をしたりしている。	買い物に利用者も一緒に出掛け、食材の購入をしている。調理手順や味付け等を利用者が職員に教えることもある。手作りのおやつを作ったり、おにぎりを持って公園へ出かける等し、楽しめるよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に合わせた食事をご提供し、量の確保が出来るよう声掛け等をご利用者様に行っている。ただし、余程の事が無い限り、摂取量を量ることはしていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	原則、毎食後ご自分で出来る利用者様には声掛けや見守りを行い、出来ない方には職員が介助で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を取っており、利用者様の排泄パターンを職員間で共有し、なるべくトイレやポータブルトイレでの排泄が出来るよう援助をしている。	トイレでの排泄を目標とし、職員が積極的にトイレ誘導を心掛けている。紙パンツから布パンツになった利用者もいる。オムツの講習を定期的に行ない、職員の意識改革につなげようとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作成しており、利用者様の排便パターンを職員間で共有し、併せて食事やヨーグルト、牛乳等でなるべく自然排便が出来るようにしている。それでも排便が無い時は、主治医に相談し下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日行っている。利用者様のご希望があれば、毎日入浴をして頂いている。なるべく週に3回は入浴して頂けるような体制を取るようにしている。	二ヶ所の風呂を使い分けて利用者の要望に応えている。拒否がある場合には、機嫌を損ねないように対応したり、声をかける時間を変えたり、担当ではない職員が対応する等している。歌を唄ったりして、和ませリラックスできるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には睡眠薬は使用しないようにしている。また、ご本人の生活パターンや体調を考慮して、適時休息や安眠が出来るように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を利用者様ごとにファイルし、各職員が把握しやすいようにしている。また、薬の変更や用量の変更等は、主治医や訪問看護師と連携することで対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物干し、たたみ、掃除等利用者様に役割を持って頂き、頼りにされていると思って頂けるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物時やドライブ時等に利用者様と出かけたり、会社の事業所合同で出かけたりして、外出の機会を増やす努力をしている。昨年6月には全事業所合同で一泊バス旅行を開催した。	週2~3回は買い物に車で出かけたり、散歩を兼ねて歩いて出かけている。時には、喫茶店や公園にも出かけている。毎年の法人での一泊旅行は利用者も楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ、お金を管理出来る方方には、数千円程度を常にお持ちいただいている。買い物時にご本人の買い物をされた時に、使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から依頼があったり、ご家族から電話があった時には出ていただいたり、手紙やはがきのやり取りもして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力華美な飾り付けをせず、行事の写真や習字等の作品を中心に飾り付けをしている。ご利用者様が混乱をきたさない事を配慮し、落ち着いた雰囲気を作るように職員は考えている。	リビングは広く、大きな窓があり外の様子がわかり四季が感じられて、利用者が外を見ている場面がよくある。利用者の写真や習字の作品が飾られ、落ち着いた過ごしやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両フロアとも食卓以外にソファや椅子を設置しており、なるべくのんびりと過ごして頂けるように配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や仏壇お位牌等、ご利用者様にとって大切な物を居室内に置いて頂き、少しでも居心地よく過ごして頂けるような配慮をしている。	利用者それぞれが、自分の居心地の良いように家具を配置し、壁面には写真や作品等を飾っている。季節の入れ替えを家族と一緒にしない、整理整頓がされている。仏壇などを置き、安らげる空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や、トイレの案内を掲げ、なるべくおひとりで行動できるように工夫したり、センサーライトを設置して、夜間でも歩きやすいようにしている。		